



Hi!



岩手大学

岩手大学広報誌
IWATE UNIVERSITY

vol.40 AUGUST
2018.8

INDEX

- P1…トビタテ! 世界で学ぶ岩大生
- P2…研究紹介
- P3…キャンパスライフ
- P4…センパイ紹介!! ほか
- いわて協創グローバル人材育成プログラムとは?
- 下水処理場を地域のエネルギー・リン資源供給ステーション化へ! 理工学部 システム創成工学科 社会基盤・環境コース 准教授 伊藤 歩
- サークル紹介 ● GANDAI UPDATES ほか
- センパイ紹介!! ● 大学院生 東京大学大学院 農学生命科学研究科 獣医学専攻 博士課程在籍 小林知也さん
- TOPICS ● 国際防災・危機管理研究 岩手会議を開催 ほか
- Information ● 基金のご案内 ほか

トビタテ! 世界で学ぶ岩大生

いわて協創グローバル人材育成プログラムとは?

『いわて協創グローバル人材育成プログラム』とは、トビタテ!留学 JAPAN日本代表プログラムと連携し、「グローバル」な視点から、地域の課題や素材を現実的かつ創造的に見極め、課題を解決するとともに、岩手の潜在的価値を最大限に引き出し、将来の岩手を導くリーダー人材を、産学官一体となって育成することを目指して実施されるものです。参加学生は、県内企業などで事前インターンシップを行った後、海外留学・研修を実施し、帰国後は研修結果を地域に還元することを目的に、県内企業での帰国後のインターンシップを行います。



▲左から榎館さん、山口さん、中田さん、田中さん

- 農学部4年 榎館 茉奈さん ▶ 留学先: イギリス・ドイツ・スイス
テーマ: 暮らしを変える
一地域と考える、新たな理想郷一
 - 農学部4年 田中 誓さん ▶ 留学先: アメリカ
テーマ: 世界にはばたけ!
Japanese SAKE
 - 人文社会科学部2年 山口 大河さん ▶ 留学先: インドネシア
テーマ: 世界の被災地から学ぶ多言語・図表記
 - 教育学部4年 岩佐 世那さん ▶ 留学先: カナダ
テーマ: 観光におけるデザインと
ユーザビリティの両立を学ぶ
 - 人文社会科学部3年 中田 秀樹さん ▶ 留学先: ドイツ・スイス
テーマ: 「岩手発」で再生可能エネルギー
の浸透を一欧州の先進事例に学ぶ
- 私たちが聞きました!
広報室学生スタッフ
- 教育学部3年 沼崎 悠華(左)
 - 農学部2年 米田 利子(右)
- 詳細 いわてグローバル人材育成協議会
<http://iwate-glocal.jp>

参加学生にインタビュー!

農学部農学生命課程4年 田中 誓さん
【留学テーマ】世界にはばたけ! Japanese SAKE
【インターン先】南部美人、酒米農家 【留学先】アメリカ



Q.留学を決めたきっかけは?

大学2年生のときに1ヶ月間、インドネシアで日本語教師のボランティアをした経験があります。その後、次は自分の専門分野である「植物」、特にイネに関わり、かつインターンシップと合わせた留学をしたいと考えようになりました。そのときに、トビタテ!留学 JAPAN日本代表プログラムを知り、コーディネーターの先生や国際課の方と相談しながら留学プランを組み立てました。

Q.留学テーマについて教えてください。

このプログラムを活用して、南部美人や滝沢市の酒米農家でのインターンシップを経て、アメリカに2ヶ月間留学しました。現地では、ライスフィールドの見学や、日本食レストランでの日本酒のPRなどを行いました。



▲アメリカで日本酒をPR!

Q.帰国後、学びをどう生かしていますか?

農学部4年の久保田さんとともに、「SAKE-SAKE」という団体を立ち上げ、毎月様々なテーマのもと、日本酒を自由に楽しむことができるイベントを企画しています。「ひとりでも多くの若い世代に日本酒の魅力を知って欲しい」という思いから、この活動を始めました。また、自分自身の留学の経験を生かし、留学を考えている後輩のサポートをしていきたいと考えています。



▲若者向けの日本酒イベント

教育学部芸術文化課程4年 岩佐 世那さん
【留学テーマ】観光におけるデザインとユーザビリティの両立を学ぶ
【インターン先】IGRいわて銀河鉄道、サラダファーム 【留学先】カナダ



Q.留学を決めたきっかけは?

岩手の公共交通機関を不便に感じていたため、公共交通機関を利用した観光をメジャー化させたいと思ったことがきっかけです。そこでメトロをはじめとする交通機関を使って観光客を集め続けるモントリオールと、バスツアーを中心にイベント等で集客をしているビクトリアへ行くことにしました。

Q.留学テーマについて教えてください。

始めに岩手でのインターンシップでIGRとサラダファームの2つの企業に行き、それからモントリオールで4週間、駅の調査や、観光地までのアクセスについての調査、語学研修、アンケート調査を行いました。ビクトリアでは4日間、会社訪問、ツーリストコンサルタントへのインタビューを行いました。



▲モントリオールの語学学校



▲帰国後に鉄道会社の動画CMコンテストに応募、最優秀賞!

得たものになると思いますが、プログラムに参加する学生のための研修をとおし、同じ目標を持つ全国の学生に出会えました。そこで築いたコネクションを活用し、現在は自分のやりたい事ができていると感じます。また、県内の観光地と公共交通機関の改善点を発見し提案できました。

岩手大学のグローバル教育について、
もっと知りたい方はこちらをCHECK!



岩手大学国際交流
ホームページ



岩手大学
国際交流
Facebook



岩手大学
グローバルブランディング

下水処理場を地域のエネルギー・リン資源供給ステーション化へ！



理工学部 システム創成工学科
社会基盤・環境コース
准教授 伊藤 歩

日本におけるリン資源確保の現状

日本は国内で肥料などとして使用されるリン(P)資源のほぼ全量を海外からの輸入に依存しています。その輸入量は年間約40万トンであり、そのうちの約5万トンが人間を介して下水処理場に流入していると試算されています。下水中のリンは、窒素成分とともに閉鎖性水域である湖沼や内湾における植物プランクトンの異常増殖を引き起こす原因になります(写真1)。



写真-1 ダム湖における植物プランクトンの異常増殖の様子(田瀬ダム湖:平成17年度時点)
出典:国土交通省北上川ダム総合管理事務所HP



写真-2 下水灰

約220万トンに達し、そのうちの約7割が焼却処理されています。従って、下水から除去されたリンの多く

は、下水汚泥の焼却灰(以下、下水灰)とします。写真1・2)に含まれています。下水灰はセメントなどの建設資材の原料として利用されるか、最終処分場に埋め立てられるため、下水灰中のリンは肥料などとして有効に利用されていない状況にあります。

下水灰からのリン資源回収

下水灰中のリンの多くは水に溶けにくいリン酸アルミニウムやリン酸鉄として存在し、また、下水灰は微量ながらも有害な重金属類も含まれています。従って、下水灰をそのまま肥料として利用することは難しいです。岐阜市では下水灰にアルカリ剤を加え、リンを溶かし出し、肥料として利用しやすいリン酸カルシウムとして回収する取り組みを行っています。しかしながら、リンの回収率は5割程度とさほど高くありません。リン鉱石から肥料の原料となるリン酸を生産する場合、リン鉱石を硫酸で溶かします。下水灰中のリン化合物も硫酸でほぼ溶解し、リン酸となりますが、アルミニウムイオン(Al^{3+})や他の重金属イオンも共存します。従って、この溶液から Al^{3+} や他の重金属イオンを除去する必要があります。そこで、研究室ではイオン交

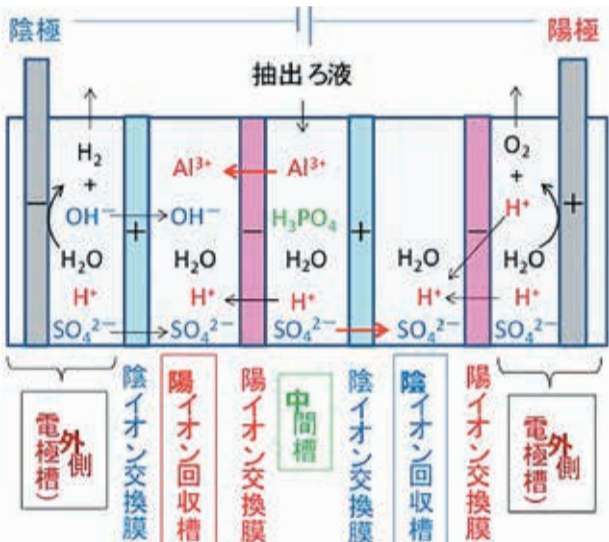


図-1 電気透析による金属イオン除去のイメージ

換膜を用いた電気透析法による金属イオンの除去を検討しました。

イオン交換膜には、陽イオンを透過させる陽イオン交換膜と、陰イオンを透過させる陰イオン交換膜があります。リン酸は、強酸性の条件では非イオンの $H_2PO_4^-$ として存在します。図1に示すようにイオン交換膜を交互に配置し、その外側を電極で挟み、真ん中の部屋(中間槽)に下水灰の硫酸溶出液を加えて通電することにより、陰極側に陽イオン、陽極側に陰イオンが引きつけられ、 Al^{3+} と硫酸イオン(SO_4^{2-})がそれぞれ陽イオン回収槽と陰イオン回収槽に

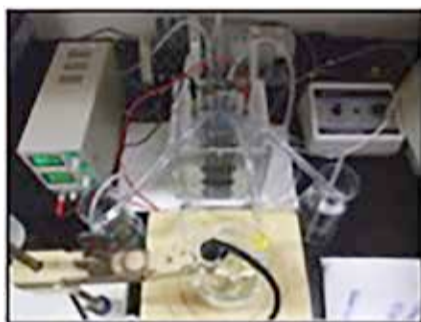


写真-3 電気透析装置の試作品

分離され、中間槽には $H_2PO_4^-$ と硫酸(H_2SO_4)が残存すると予想しました。電気透析装置の試作品を製作(写真3)し、実験を行ったところ、10時間の通電によって Al^{3+} の大部分が陽イオン回収槽に移動し、 $H_2PO_4^-$ の6割程度が中間槽内に残ることが分かりました。この中間槽内の溶液を取り出してアンモニア水中で中和し、乾燥することでリン酸アンモニウムと硫酸アンモニウムの混合物(写真4)を得ることができました。この混合物は水に容易に溶け、また、重金属類の含有量が低いことから、即効性のリン酸質肥料の原料として利用できることが分かりました。



写真-4 下水灰から回収したリン酸塩化合物

本技術は残念ながら実用化には至っていませんが、今後、リン産出国がリン鉱石の輸出を制限し、リン鉱石の価格が高騰するような事態が起これば、実用化も夢ではないかもしれません。

下水汚泥の燃料化と肥料化

2015年に下水道法の一部が改正され、下水道管理者には下水汚泥を燃料や肥料として再生利用する努力義務が課されました。下水汚泥は水分を除いた固形物の約8割を有機物が占めています。この有機物の潜在的な総発熱量は約43PJ(ペタジュール)と見積もられており、これは原油換算で約110万KL(年間原油輸入量の約0.5%)に相当します。下水汚泥を燃料化する方法としては、



写真-5 リン酸化合物の析出物

嫌気性微生物を利用して有機物をメタンガスに変換してバイオガスを取り出す嫌気性消化(メタン発酵)や、脱水汚泥を乾燥後に蒸し焼きにする炭化などがあります。残念ながら、下水汚泥中の有機物のエネルギー利用は、2015年度で全体の16%に過ぎず、今後、推進していく必要があります。しかしながら、嫌気性消化のデメリットとして、バイオガスに共存する硫化水素やシロキサンを除去する必要があること、汚泥から溶出するマグネシウムイオン、アンモニウムイオンおよびリン酸イオンが結合した析出物(写真5)によって送泥管の閉塞が起ること、消化後の汚泥を有機質肥料として利用する際に微量な重金属類や有機化学物質(環境ホルモンや医薬品類)が問題になること、などがあげられます。これらの問題を解決するために、研究室では、紫外線を用いた硫化水素の分解除去法、嫌気性消化前の汚泥からのリン、マグネシウムおよびカリウムの分離回収法、鉄(VI)酸カリウムを用いた有機化学物質の分解除去法について研究を行っています。これらの方法が確立されることによって、下水処理場の役割が単なる汚水処理だけでなく、エネルギーやリン資源を持続的に地域へ供給できるステーションとして発展していくことを期待しています。

GANDAI UPDATES

岩手大学公式Facebookに掲載している学生取材記事より、反響の大きかった記事をご紹介します！

f 食堂のソフトクリーム

こんにちは、暑い日が続きますね！暑い日は日陰だけ歩いて登校できないかなんて考えています。広報室学生スタッフの浅沼です！

夏といえば、ソフトクリームが美味しい季節ですね。今回は、農学部食堂でソフトクリームが食べられるとのことで、食べてきました！！

まずはレジで直接ソフトクリームを注文、会計を済ませます。ちなみにソフトクリームは一個200円で販売されています。注文するとレシートが渡されるので、そのレシートを持ってカウンターへ行き、ソフトクリームに交換してもらいます。

ソフトクリームは味が種類のみ販売ですが、週ごとにソフトクリームの味は変わるので要チェックです。ちなみに、写真はブルーベリー味です！



量は、多すぎず少なすぎずちょうど食べやすい大きさでした。暑かったこともあり、ひんやりとしていて美味しさが倍増していた気がします！ブルーベリーの味がちゃんとしていて、あつという間に食べ終わってしまいました。農学部食堂からは緑が多く見え、冷房が効きすぎないなかで、食べるソフトクリームは絶品でした！以上農学部食堂のソフトクリームについてでした。

岩大にはテニスコートがあるのをご存知でしょうか？ 球技場のそばに、体育の授業でも使うテニスコートが6面あります。今回はそのテニスコートで練習に励むテニス部の方々にお話を伺ってきました！

？ どのサークルですか？
週7回活動しています。平日は朝と放課後に練習しています。毎年5月にある大きな大会に勝つことがテニス部全体の一番の目標です！

？ 普段の活動内容について教えてください。
休日と朝は部員が全員揃うのでゲーム練習、平日放課後には男女一緒に基礎練習をします。冬は外のコートが使えないため、体育館で週に2回練習します。行事としては合宿、お花見など色々な行事があって、納会で仮装してテニスをしたりしています！

？ 部活の雰囲気は？
平船：男子は個性的な人が多いです。共通なのはテニスが好きなところだけかな。
工藤：女子は真面目な人が多い、1年生も実力がある人が入ってくれました。

？ 入部のきっかけは？
工藤：大学でもテニスを続けたくて、さらに部活の雰囲気も良かったので入部しました。
平船：先輩の紹介です。



練習風景



(左から) 取材に協力してくれた三宅さん、平船さん、工藤さん

取材にご協力いただいた皆さん
女子部長 農学部3年 工藤 唯さん 青森県立弘前中央高等学校出身
キャプテン 教育学部2年 平船 葵さん 岩手県立一関第一高等学校出身
部長 教育学部3年 三宅 勇希さん 宮城県立泉館山高等学校出身



元気いっぱいのメンバー

三宅：高校でテニスをやり残したと感じる部分があり、続けたかったからです。
？ 今後の目標は？
工藤：5月の大会ではいつも3位なので、来年は2位を目指して頑張りたいです。
平船：仲間と楽しくテニスをしたいです。
三宅：シングルでインカレへ行きたいです！
インタビュ어의最中も、明るく賑やかな雰囲気です。テニス部の仲の良さが伝わってきました。今後の活躍に注目です！

広報第9事務所通信

広報室学生スタッフで組織される「広報第9事務所」。事務員の誰かが、いま伝えたいことをゆくりと発信します。



学生寮を紹介します！

こんにちは、教育学部2年の高山です。

今回は学生寮を紹介します。岩手大学には4つの寮があり、2つは大学内に、残りの2つは大学から少し離れた場所にあります。今回は私が寮生として過ごしている北謳寮を例に紹介します。北謳寮は内装がキレイで設備も整っています。また、寮費という家賃も1万4千円という破格の値段で住めるのも良いところです。しかし、寮には多少不便な点もあります。寮にある共同の洗濯機はホコリが付きやすく、また部屋や廊下には虫が出やすいので虫が苦手な人にとっては少し住みづらいかもしれません。寮の伝統に「ストーム」というものがあり、寮に入りたての頃に寮生としての精神を先輩から教え込まれ、身につけるといふ行事もあります。しかし、私が寮に住んでいて一番良いと感じるのは他の学生との交流です。大学に入学したての頃は誰しもが友達を作りたいと思うはず。しかし、一人暮らしだと大学に通っている時しか友達を作るチャンスはないですよね？寮では過ごしているだけで学部を問わず自然と仲良くなり、様々なイベントも催されるので、友達が多くできます。(北謳寮の隣には女子寮もあり、異性とも仲良くできる可能性も！) 大学生活を送るのに寮生活はオススメです！



盛岡市高松にある北謳寮

盛岡市高松にある北謳寮

盛岡市高松にある北謳寮

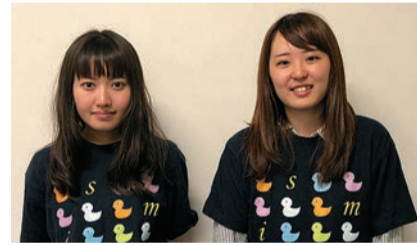
コーナー担当 ■教育学部2年 高山優樹

サークル紹介 ソフトテニス部

サークル紹介 ボランティアサークル Smile

私たちが聞きました！
■人文社会科学部4年 浅沼 希水(左)
■農学部2年 川戸 菜摘(右)

みなさんは1度でもボランティア活動に参加したことがありますか？世の中には多種多様なボランティア活動が存在しています。岩手大学にも様々な活動内容のボランティアサークルがあります。その中から今回はボランティアサークルSmileを紹介しようか？



(左から) 取材に協力してくれた青木さん、宮澤さん

？ ボランティアサークルSmileはどんなサークル？
宮澤：子供たちを対象として活動しているボランティアサークルです。児童館などに行き、お化け屋敷を作ったり、影絵を上映したりして子供たちに楽しんでもらうことを目的に活動しています。

？ 入部のきっかけは？
宮澤：サークルオリエンテーションでサークルの活動を知り、写真や話を聞いて、すごく楽しそうだと思い入部しました。

？ サークル活動が月2回程度で、サークル活動しながら自分の時間も十分に取れ、両立ができるサークルだと思いましたが、また、先輩方も優しくして雰囲気よく、楽しそうだと感じました。
青木：児童館に行くのは土曜日が多く、平日は影絵の製作をしたり、お化け屋敷の打ち合わせをしたりしています。お化け屋敷は、道具もオバケ役もすべて自分たちで考えて行っています。

？ 普段の活動内容は？
宮澤：児童館に行くのは土曜日が多く、平日は影絵の製作をしたり、お化け屋敷の打ち合わせをしたりしています。お化け屋敷は、道具もオバケ役もすべて自分たちで考えて行っています。

？ 児童館に行くのは月に2回程度で、同じ児童館か



影絵の上映



子どもたちとの活動

取材にご協力いただいた皆さん
班長 農学部2年 宮澤 智恵さん
教育学部2年 青木 萌香さん
農学部2年 青木 萌香さん
(北海道立札幌東高等学校出身)

どの程度も呼んでいただければと思います。

？ ボランティアサークルSmileならではの魅力は？
青木：子供と一緒に体を動かすサークルはあると思うのですが、影絵などパフォーマンスで子供たちを楽しませることを目的とした活動は私たちがならではの魅力だと思います。

？ 今後挑戦したい活動は？
宮澤：毎回同じ施設を訪問していることが多いですが、今年は新しい児童館から声をかけていただいたので、そのような初めての場所でもより多くの子供たちに楽しんでいただけたらいいなと思います！
どのようにすれば子供たちは楽しんでくれるのかを毎回考えて準備をして、パフォーマンスをしているので、その思いは必ず子供たちに届いていると思います。人のために何かをするというのはとても素敵な事です。ボランティアサークルSmileの活動がより多くの子供たちに楽しんでもらえるよう、今後の活動に期待です！

TOPICS トピックス

岩手大学開学記念行事を挙行

岩手大学は平成30年6月1日に創立69周年を迎え、これを記念し6月2日（土）に開学記念行事を開催しました。記念講演として本学農学部卒業生で前福島県南相馬市長の桜井勝延氏より、「東日本大震災 南相馬市の歩み」と題して講演いただきました。津波や原発事故による甚大な被害の中での首長としての対応や、負の遺産・風評被害の存在する状況から正の発信として新しい魅力を伝えていくことの重要性、地域の復興に注力した様々な取組について詳細にご報告いただきました。

続くフリーディスカッションでは、岩渕学長の進行により桜井氏と教育学部3年の二永芽生さん及び齋藤七彩さん、理工学部3年の小野史織さんが「これからの大学に期待すること」をテーマに討論を行いました。桜井氏は本学で過ごした学生時代をご自身の原点であると語り、学生からの質問に対しては、社会的な拘束のない時間で様々な経験をし、人間関係を築いて視野を広げてほしいと激励いただきました。



(左から) 岩渕学長、桜井氏、学生の齋藤さん、小野さん、二永さん

国際防災・危機管理研究 岩手会議を開催

7月17日（火）から19日（木）の日程で、国際防災・危機管理研究 岩手会議が開催されました。本会議はアメリカ・ハーバード大、中国・清華大学との共催で、大規模災害の様相、緊急対応、地域力など地域復興に関する各国の知見や成果を発表、共有するとともに、広く国内外にむけて東日本大震災を経験した岩手からの発信を目的として開催されました。

初日は世界15か国以上から研究者、一般市民約300名が参加。岩渕学長及びオランダ・ライデン大学のアルイエン・ボーイン教授による基調講演、被災3県の大学による取組報告や、アメリカ・ハーバード大学のアーノルド・ハウット博士による講演など様々なセッションが行われ、大規模災害に対する知見や課題について議論を深めました。

初日参加者の集合写真



Introduction to a senior

センパイ 紹介!!

OB-INTERVIEW インタビュー

第37回



PROFILE

ともや 小林 知也 さん
 神奈川県相模原市 生まれ
 平成27年3月 農学部
 獣医学課程 卒業
 (獣医微生物学研究室所属)
 東京大学大学院 農学生命科学研究科
 獣医学専攻 博士課程在籍

Q1 在学当時の思い出をお聞かせください。

野生動物に興味があったので、ツキノワグマ研究会（クマ研）に所属しました。クマのことはもちろんですが、それ以外にも様々な野生動物と関わる機会を得ることができました。現在の研究対象であるコウモリに出会うきっかけにもなりました。

もう一つは4年生の後期から所属した研究室です。ウイルスの研究に興味があったので、獣医微生物学研究室に所属しました。ボスの村上賢二先生はとても気さくで宴会好きな方で、研究のいろはを教えてくださいました。また、村上先生はウシのウイルス病の研究が専門でしたが、ご厚意で（私のわがままで）コウモリのウイルスに関する卒業研究をおこなわせていただきました。先生には大変感謝しております。

Q2 大学院に進学したきっかけはどのようなことですか。

卒業研究のテーマであったコウモリのウイルスに関してさらに研究したかったからです。なぜコウモリなのかと疑問に思われる方も多いと思います。興味を持ったきっかけは、大学二年生の時にクマ研顧問の青井俊樹先生から聞いたコウモリに関する話でした。その後、コウモリの専門家の(故)向山満先生に師事を仰ぎ、コウモリの生態について学んでいく中で、コウモリが様々なウイルス性感染症病原体の自然宿主として注目されていることを知りました。、日本に生息するコウモリについては、そのような病原体を保有しているかどうかはほとんど明らかになっていなかったため、私の手で明らかにしていこうと考えました。

Q3 研究のやりがいや今後の目標をお聞かせください。

よく言われることかもしれませんが、研究を行なう過程で、ほとんどのことはうまくいかないもので、しばしば挫折しそうになります。しかしながら、試行錯誤を繰り返し、世界で自分だけが知っているという発見したときはニヤついてしまいます。一番やりがいを感じる瞬間です。

Q4 後輩となる岩大生へメッセージをお願いします。

これから岩大生になる方、大学生になると自分の自由にできる時間が格段に増えると思います。卒業して思いますが、もう人生であんなにまとまった時間を得られることはないです。その時間をダラダラと過ごしていると、脱兎のごとく大学生活は過ぎ去っていきます。是非、自分のやりたいことや興味のあることにどんどん挑戦して大学生活に悔いが残らないようにしてほしいと思います。頑張ってください。

Information

岩手大学創立70周年記念事業募金へのご協力について

岩手大学は、1949年の創立以来、2019年に70周年を迎えます。その節目にあたり、これまでの足跡を振り返るとともに東日本大震災発生後の取り組みをとりまとめ、地域や世界に向けた発信、及び未来への伝達を包括する、「読んで、見て、感じて、活かし伝えていく」岩手大学創立70周年記念事業を実施します。この記念事業を進めるにあたり、教職員、学生の大学構成員をはじめ、同窓生や学生の保護者、産官民の多くの関係者の皆様より広くご支援を賜りたく、創立70周年記念事業募金を創設し、募金活動を行うことといたしました。この趣旨をご理解いただき、ご支援を賜りますようお願いいたします。

募金事業の詳細、申込・払込方法については、イーハトーヴ基金ホームページをご覧ください。



岩手大学イーハトーヴ基金ホームページ：
<http://www.iwate-u.ac.jp/ihatovkikin/>

【お問い合わせ】
 財務部財務課 財務総括グループ
 TEL:019-621-6024 zsomu@iwate-u.ac.jp

行事予定

平成30年度オープンキャンパス
 第1回8月9日（木） 第2回10月27日（土）
 ※第2回は不來方祭（大学祭）と同時開催
 【お問い合わせ】入試課 TEL：019-621-6064
 不來方祭（大学祭）10月27日（土）、28日（日）
 【お問い合わせ】学生支援課 TEL：019-621-6056

岩手大学公式ソーシャルメディアのご案内

岩手大学公式Facebook、YouTube、学長Twitterを更新中！Facebookには、広報室学生スタッフが取材した記事も掲載しています。ぜひ覗いてみてください。



岩手大学公式Facebook
<https://www.facebook.com/iwate.u>



岩手大学公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UC8ua2BprbPkSvGSMYwK1aOA>



岩渕学長Twitter：
https://twitter.com/iwate_u_ai2016

Hi!こちら岩手大学

岩手大学広報誌 vol.40 AUGUST 2018.8

編集後記

「平成30年7月豪雨災害」により、犠牲となられた皆様に哀悼の意を表しますとともに、被災された方、関係者の皆様にお見舞い申し上げ、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

昨今は気象の異常に驚くばかりです。本号のトップ記事は「いわてグローバル協創人材育成プログラム」です。グローバルな視点から地域の防災を考えられる人材の必要がますます高まっている気がします。今夏は猛暑が続いています。まずは個々人で熱中症に注意し、暑い夏を乗り越えましょう。

Hi!こちら岩手大学 vol.40

岩手大学広報室広報誌専門部会
 2018年8月 発行
 〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
 電話 019-621-6015 FAX 019-621-6014
 E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp <http://www.iwate-u.ac.jp/>
 本誌へのご意見・ご感想をおまちしております。